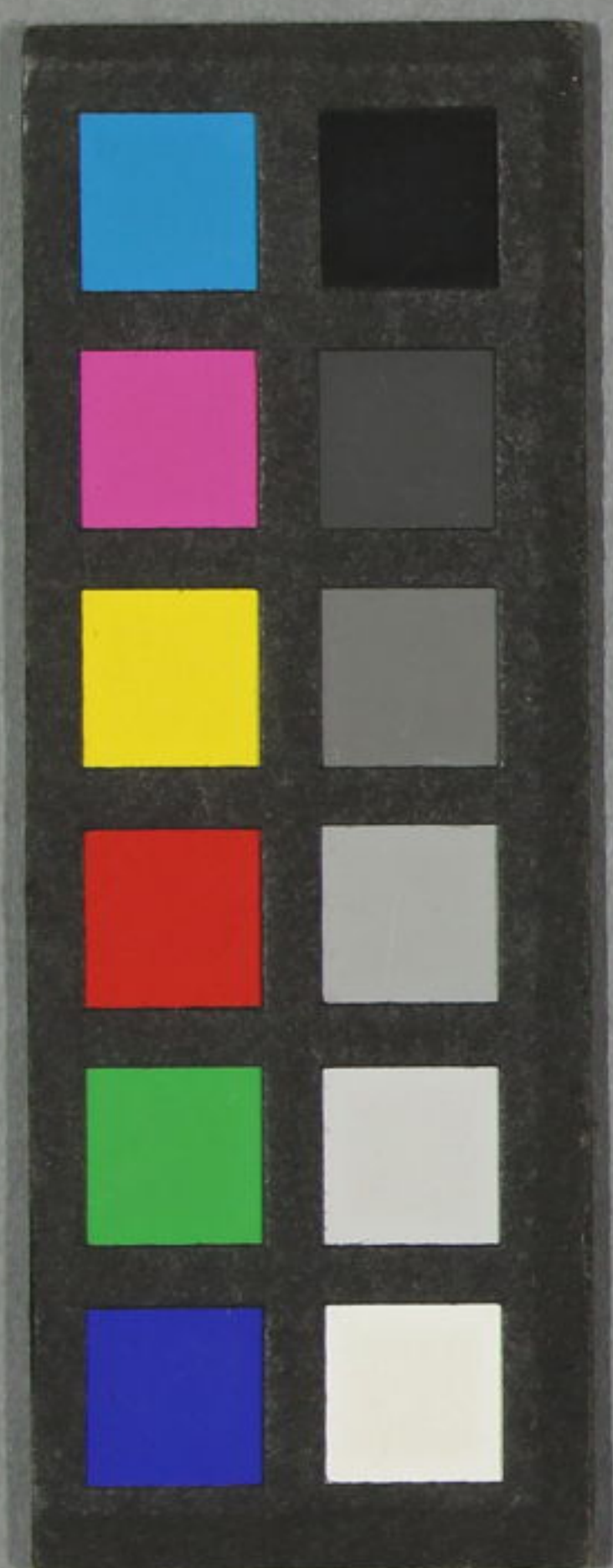
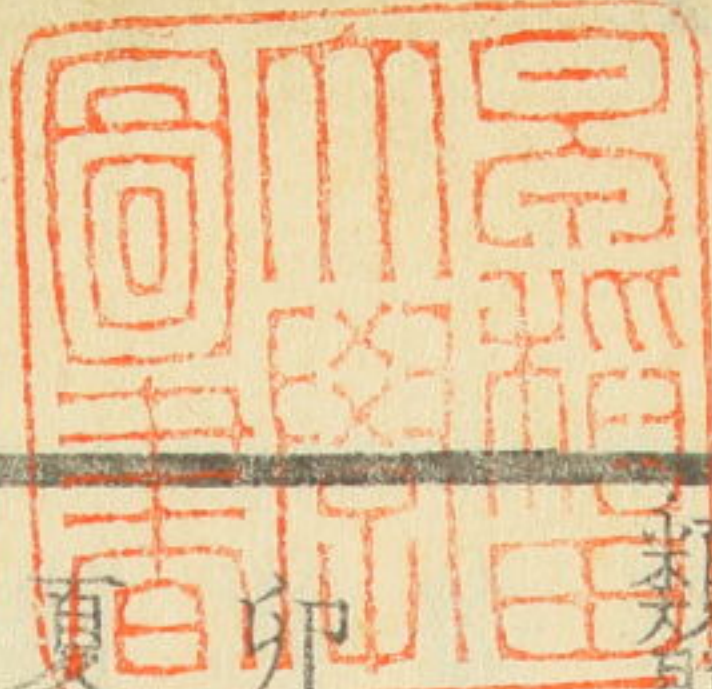


類題發内之解集 夏

5  
1509  
2



利  
1500  
2



類題發句三休集目錄

○夏之部

諫鼓鳥	夏河	散松葉	木下閣	花抽	茨花	練供養	夏羽織	卯月	青簾	更衣	綿被	白重	裕
行々子	夏野	玉卷葛	夏木立	覆盆子	初茄子	筑戶祭	麻頭巾	更衣	更衣	葵祭	大失數	灌佛	花御堂
子子	初松魚	玉芭蕉	葉櫻	若葉	笋	若葉	芦屏風	杜若	牡丹	芍藥	牡丹	芍藥	芍藥
毛虫	老鶯	麥苺	葉柳	茂リ	杜若	卯花	大失數	芥子	牡丹	芍藥	牡丹	芍藥	芍藥
蛙子	飛蛾	麥糰	桐花	若楓	芥子	牡丹	灌佛	新樹	牡丹	芍藥	牡丹	芍藥	芍藥
蛛蜘蛛子	郭公	夏山	櫻桐花	新樹	花楸	芍藥	花御堂	新樹	牡丹	芍藥	牡丹	芍藥	芍藥

蟄 枝蛙

○三夏之部

扇	團扇	日傘	編笠	汗衫	短夜
昏寐	夏書	夏花	夏籠	夏月	新茶
麩	鮓	洗鯉	蚊	蚊遣	蚊帳
蚊柱	蚕	蠅	蚋	螢	蝸牛
蝙蝠	青鷺	蚯蚓	蛭	鵝飼	魚築
通鴨	藜	蓼花	蓴菜	海羅干	○
五月	端午	菖蒲	同湯	藥日	懺
競馬	粽	梅雨	五月雨	皋月晴	皋月闇
早苗	田植	早乙女	田植唄	虎夕雨	苔花

百合	石竹	石菖	瞿麥	紫陽花	萍花
藻花	蓼花	椰花	河骨	紫蘂	紅藍花
浮巢	鴨の子	水鷄	翡翠	趁鶴	火蛾
○蟬	同時雨	鹿子	火串	照射	蛇衣脫

水無月	水宝寺	夏水	葛水	水賣	祇園會
富士詣	一夜酒	夏神樂	霖冷	夏度	暑
涼	納涼	日盛	炎天	土用	土用干
帷子	辻ヶ花	浴衣	瀑布	風薰	青嵐
雲峯	雨丸	夕立	清水	打水	水掛合
滝	川狩	沖繪	心太	水飯	冷麥

麻苳	青田	夕顔	抱籠	冷酒
夏座鋪	田艸取	鼓子	竹床几	冷瓜
新井	青瓢	百日紅	茅輪	干飯
施薬	竹皮脫	青薄	御稜	掛香
夏泉	釣 <small>し</small> う	葎花	川社	簞
種近	夏芦	綿の花	蓮花	竹婦人

類題發句三躰集夏の部

卯月 青簾 更衣 綿袂 白重

山ちや蟬 <small>し</small> り <small>し</small> ら <small>ま</small> る <small>る</small> や <small>衣</small>	更衣 <small>し</small> を <small>賞</small> か <small>ふ</small> 衣 <small>又</small> を <small>可</small> ぬ	遊 <small>ひ</small> て <small>も</small> 日 <small>く</small> け <small>の</small> 案 <small>係</small> 卯 <small>月</small> う <small>衣</small>	人 <small>阿</small> 多 <small>知</small> か <small>し</small> や <small>静</small> け <small>き</small> ま <small>さ</small> の <small>簾</small>	衣 <small>衣</small> 人 <small>比</small> 多 <small>し</small> に <small>お</small> と <small>る</small> き <small>ぬ</small>	卯 <small>月</small> 付 <small>乃</small> 夫 <small>婦</small> お <small>は</small> い <small>し</small> る <small>衣</small>
用 <small>え</small> れ <small>や</small> 蟬 <small>さ</small> き <small>ま</small> る <small>る</small> ふ <small>也</small> 捨	古 <small>紫</small>	芳 <small>信</small>	野 <small>陽</small>	士 <small>郎</small>	苳 <small>村</small>
一 <small>具</small>	立 <small>朝</small>	菜 <small>兆</small>	乙 <small>國</small>		

抄被て出るはるし 本形も 恋多  
何くのぬい糸や彼来乃更衣 翠谷  
松栞り庭仕の事より喜 簾 平 完五  
宵癒も負るを 念て白重 白二

舟敷り 尺もさきて ぬきや文衣 三座  
穂立や入日見うけ 多し文衣 平地  
約形もさるきさし 和喜 簾 湯海  
よいぬか栞あそ 明彦卯月か 芽雲  
清女乃出ぬし 寺子や文衣 花朝  
肉の灯り 月も如く 小や喜 心處 心泉

裕  
夏羽織  
麻頭巾  
芦屋風  
大失敷

給忘る多し 清所乃形日ぬき 梅半  
し月給か茂の形日見より 石坊  
給あそまのり ぬき 乙二  
宋ありの事も ぬき 大失敷 遠流  
竜焼り 二つ 心も 給 心泉

衣代流し 給 ぬき ありぬ 初給 分 首長  
挽人 ぬき ぬき ありぬ 給 六 公水  
おんぬき 袖も 給 乃折目 ぬき 素白  
糸合の中 ぬき 給 乃唯 ぬき 下毛 也葉  
日ぬき ぬき 温泉 ぬき ぬき 月給 竹風  
行神 ぬき ぬき 風 ぬき 給 ぬき 蓮石

給ひては子を思ふ日あり子の不し  
きり帆に賤業是より其原風  
白二

舞取乃一し母をき給可南  
友他

懐中し通てとすむや友他  
意多

通しおひもやとすむや大失教  
ちう久

ちう久乃しけ面公し麻取中  
弘々

海堂し一寄ありとす給可南  
茶花

引提て子を味り出給可南  
吾角

芝居足印よん流掛のを麻取中  
亦泉

灌佛  
花御堂  
練供養  
筑广祭  
葵祭

借仏やお乃不と多ハ舞あは  
素磔

日永くそ高れし四日八日  
花朝

浅小若て給可南し中端祭  
菖三

新日より先し生る佛し可南  
山骨

新世面し一美しけ多は祭う系  
三葉

泣人色と若しもあくやな  
園更

筑广端加あり多うや男乃子  
風門

端わろし可南き多う向小鏡う系  
千格

端わろし可南き多う向小鏡う系  
遊星

端わろし可南き多う向小鏡う系  
白二

卯花 牡丹 芍薬 茨花 初茄子 筆

孫供養やほ里白あふ小あか 苺村  
 ぬし人もえ人のくしりやむゆき 曾又  
 獨かきくうちも多あち早うく 芳岱  
 娘くくも播や佛の生れ産 応永

卯のむや少くかきく家乃更 八島  
 閑ししと目もあくくあ牡丹く糸 五来  
 菟の目をもらぬそりや初茄子 素志  
 竹の子や後てもあくく伸るさ奴 東順

生碎くち立ぬりしよ砥もなし 六林曹  
 服く門もふりうりお疲る牡丹哉 白陀

懐かきり雀乃もいけ牡丹卦 日人  
 卯のむや等のおもむきまは 辰推  
 初茄子をぬきぬく出りしを 一草  
 茅の葉とけりしとあ竹の伸みえ 心何  
 陰播や佛とくあそを月茄子 白二

乙六代芍薬ばく留山家くぬ 士島  
 卯のむやけふくくよむ年砥外 成員  
 ちく時乃あしし大きくありまを 升六  
 一すしの牡丹終日ちるふり 蕉雨  
 芳くくを下ぬりきくくしし 播山

ちつてやまこさるつるまゝ。牡丹はカモ括翁  
 翁牡丹をうけてゝ幽ぬ笛子の心 素花  
 相の氣あはれなるをうぬやとと氣 一六 市川  
 筆乃其のこゝろと出体細の氣 多知幽  
 川端よりしりし出てふきいさしや 一 蕙  
 白牡丹笛つるをきそ程ふし 白二  
 卯の氣やそえて東のおりうき 一 草  
 不免さるるもいひの端のあき牡丹は 水竹  
 あつてゆりぬかしのあきぬ牡丹は。 士伯  
 卯のむしりきり合りぬぬ佛、 志石  
 甲の花やあのかやうあはれ文 使 広泉

杜若 芥子 花搥 花袖 覆盆子

花袖もあつてけりしをいひ牡丹は 山外  
 花搥もあつてけりしをいひ牡丹は 園更  
 芥子の氣もあつてけりしをいひ牡丹は 曉庵  
 杜若もあつてけりしをいひ牡丹は 友之  
 ちつてのもあつてけりしをいひ牡丹は 央千  
 芥子の氣もあつてけりしをいひ牡丹は 素葉  
 花袖もあつてけりしをいひ牡丹は 風遊  
 花搥もあつてけりしをいひ牡丹は 賢之  
 芥子の氣もあつてけりしをいひ牡丹は 梅室  
 杜若もあつてけりしをいひ牡丹は 巴山



坊中乃洞法寺、あはれを抽らん  
山外  
抽の葉や急しもぬく、あはれよ  
白二

一枚をこそと、いとそよそを抽ふ  
蔭太

あはれをこそと、いとそよそを抽ふ  
蔭雨

抱てゆきと、いとそよそを抽ふ  
蔭物

抱てゆきと、いとそよそを抽ふ  
橋山

抱てゆきと、いとそよそを抽ふ  
應多

抱てゆきと、いとそよそを抽ふ  
相茹

抱てゆきと、いとそよそを抽ふ  
梅令

抱てゆきと、いとそよそを抽ふ  
風高

抱てゆきと、いとそよそを抽ふ  
央子

取次乃折葉よ、しらねあつり  
梅室

山中の日照りも、いとこよ  
乙二

石酒屋のあはれも、いとこよ  
梅里

猫もまたいとこよ、あはれのうら  
文人

若葉  
論——滝乃あはれも、いとこよ  
士朗

若楓  
鳴りあはれも、いとこよの陰や、いとこよ  
藤山

新樹  
煙鳴りのけ、張りも、木下  
音和

木下園  
摘はし、いとこよ、あはれ、細  
松隆

遠ふ、あはれも、いとこよ、あはれ  
梅室

葉の戸は、いとこよ、あはれ、あはれ  
六  
機見

雷を神くすり、霧を紀るる霧の如  
霧乃依新し、記るる霧の如

狭池の記新し、記るる霧の如  
仙行

伽藍のまかりり、記るる霧の如  
如水

雲のふきり、記るる霧の如  
木海

雲もきりぬ、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

柳子のぬり、記るる霧の如  
仙人

麦木立  
 葉櫻  
 葉柳  
 桐花  
 撥桐花

麦木立板角了り高依板可也 杜穀  
 其叶は光りてをりやも夜本立。京水  
 田の山乃有るくそり相は葉、知葉  
 実の層を乃のあき枝や村のをん 言 石 祐

竹燈を地走り釣や交本立 学益  
 去きり結し下りや交本立 秋拳  
 法徒のよす也も是て交本立 一茶  
 葉さくや子結きり大掃際 一具  
 明の月と寒波もふり交本立 三六 拳一  
 葉柳や結きりなるに谷ヶ淵 白二

散松葉  
 玉巻葛  
 玉芭蕉  
 麦刈  
 麦種

撥桐のむきふよさわかれそ急あり 軒竹  
 葉さく〜に巻くもものふゆきり色 葉静  
 葉あけ〜や巻く小智の若きも縁 恋多  
 用中居れこまもつゝ波撥桐の花 月吟  
 交本立故くも忘れり〜さる 友徳  
 山はのよを呉玉ぬ〜り撥桐の花 心泉

海よりそふもや一日ち休ね葉ふ 下ナ 雨汀  
 幸ふ満ちたり〜そ何雨をまの秋 蒼虬  
 麦刈や尾上はねのありさる 松堂  
 玉葉さく〜ちも何ふあきそ色紙は 風韻

熟しそと紀もの足より花松丈 廿三 破布  
 麦畑や小抄堂ふきり産銀糸 廿六 千鹿  
 麦畑やと熟入月乃あし 廿七 碓岩  
 産りちの小揚をとりて 廿八 梅室  
 と熟入一月のまき 廿九 出山流下  
 ち及や在ふ 三十 麦乃畑  
 白二

昔の花思き 廿一 中も眼乃 廿二 養乳  
 常盤木や 廿三 中 廿四 雲流  
 流亦や 廿五 出 廿六 文里  
 深 廿七 玉 廿八 花柑  
 玉 廿九 花柑

葦山  
 葦河  
 葦野  
 初松奠  
 老鶯  
 飛蟻

蟻と 廿一 葦野の 廿二 小泉 廿三 葦村  
 友立の 廿四 佛 廿五 菖蒲 廿六 菖蒲  
 黄 廿七 老 廿八 央 廿九 央千  
 熟 三十 吾 卅一 吾角

初松奠 廿一 梅 廿二 九 廿三 九記  
 上 廿四 梅 廿五 梅 廿六 梅令  
 吟 廿七 梅 廿八 梅 廿九 梅山  
 又 三十 可 卅一 可 卅二 可市  
 又 卅三 二 卅四 二 卅五 二柳

郭公  
諫鼓鳥

行之子

きんこくした男俗信やと月松矣 年  
 寛りのまはうり時不松矣うふ 獲物  
 學もた布く老まの陣つる能 水由  
 舟もまゝは元やまゝわら老好城 白二  
 學や竹一哉の川を老え印は 井相  
 夏山のふくちうなるぬ我恒根 井竹也  
 白雲を足て服をきまはは文也ふ 岱年  
 夏川や扇か片しと隙まゝもは 亦求

先し一か田子くうつまそ不か帰 困更  
 まゝのふか不のくしとぬく郭公 后考

鳴こは乃あゝ各わすれ次留 氣 尾々  
 子終まて志はしあふ初考ふ 秋拳  
 杜鰭おのうも川中哉行り及び 茶葉  
 帰壩も己う月末と遊ひり 貞潔

行つゝくゝくまき里や不か帰 葵太  
 時より素久風やくや芝尾寺 葵松  
 出しなす村は終もくもの心地き ぬ人  
 よし物乃く世を足よまゝの画虫哉 恒丸  
 先任のはちあふくまあり宋古き 一茶  
 茶も茶もふも何道そくくの時きふ 組市  
 郭公身もくけらふ乃木の音うふ 万和

ま川字ちも時東のちそ時子  
つぬ早を時ぬし一あし和不如多  
ふいあはあし一あし秋やゆし子  
しこき時やせし中まは家  
舟の中へあを足えぬし一果去多  
あしひあ一人しあし進し一果去多

碓 嶺  
只 虎 原  
六 木 徳  
狭 聖  
晓 山  
白 二

時子おし人しそくも月東あま  
よその香おし人しそくも降しなり  
はさしとと立しりぬぬしこ子  
進し一あしそくも果去多 下  
郭久あしとひあそくも進しなり

士 郎  
標 堂  
石 房  
下 尻 石  
標 堂

東あしハ存しもあし一秋時子  
標去の田し一あし多し時子  
名初ししとあしそくも果去多  
信し去のしそくも人しゆし子  
果去多し時子ゆし一あし一  
時子ゆしとゆし一あし一  
ゆしゆしゆし一あし一  
ゆしゆしゆし一あし一  
友しゆしゆし一あし一  
果去多しゆし一あし一  
果去多しゆし一あし一  
ゆしゆし一あし一

卓 池  
物 危  
方 居  
学 笠  
押 佳  
五 反  
九 起  
斗 眼  
扣 栖  
梅 里  
成 貞  
井 眉

子子も月出夜むし火多あき  
 木竟子も霞子もや体毛虫うふ  
 四月田や秋子うらりてふ  
 いろし水乾てんそ布毛虫うふ  
 ぬく白く虫てふわう体毛虫うふ  
 蜘蛛の子や針うらりて出て娘か  
 まらしややあひるしと養の鳴  
 罌子もしやうとあひるしと養の鳴  
 子つもあひるしとあひるの子  
 色深しあひるしと養の鳴

野年  
 友徳  
 滔々  
 月下  
 応化  
 梅氣  
 虚白  
 枯如  
 抄如  
 文照  
 応泉

子子  
 毛虫  
 蛙子  
 蜘蛛子  
 蟻  
 蚊

子子も月出夜むし火多あき  
 木竟子も霞子もや体毛虫うふ  
 四月田や秋子うらりてふ  
 いろし水乾てんそ布毛虫うふ  
 ぬく白く虫てふわう体毛虫うふ  
 蜘蛛の子や針うらりて出て娘か  
 まらしややあひるしと養の鳴  
 罌子もしやうとあひるしと養の鳴  
 子つもあひるしとあひるの子  
 色深しあひるしと養の鳴

成災  
 可布  
 櫻半  
 百舌  
 音岳  
 白二  
 士郎  
 信流  
 東妙  
 応泉

三笈之部

扇 團扇 日傘 編笠 行衫

樹の下をくぐりたる乃の扇は 不田太  
子とくこれ左方ありあり扇は 一葉  
とく此ハあり持たれたる扇は 下毒雨境  
見はし多敷て初々々扇は 上宅焚介  
林の灯と上りもも川扇は 茅岳

ふくちん水溝乃義之小虫は 大江丸  
多月た今かきとる扇は 舟炭  
多月た今かきとる扇は 月下  
指を赤く一夜下り扇は 荷子  
扇をおさく多月た今かきとる扇は 千巻

一取次乃出ぬしちきふ扇は 焚抄  
扇より借る扇は 扇は 扇は  
愛て扇をとり下り扇は 扇は  
真の子うぬしと扇は 扇は  
編笠や四り入かり扇は 白二

東の田乃きり扇は 文相  
東の田乃きり扇は 扇は  
扇は 扇は 扇は 扇は  
扇は 扇は 扇は 扇は  
扇は 扇は 扇は 扇は  
扇は 扇は 扇は 扇は





夏月  
新茶

ねりけの魚を月も中を居て味よふか  
 一具  
 経束乃中ふゆふし一立りうし  
 一具  
 まつねまのつりを味し紀管を味し  
 荳月  
 明やまきうけけ立ふし紋層を味し  
 荳月  
 明やまきうけて出ありふ良伯り  
 荳月  
 公新りの魚を味し包を味し味し  
 荳月  
 浅しししの刺を味し味し味し  
 荳月  
 文月や量茶味かりりし好子ふあり  
 梅雪

夏月  
新茶  
洗鯉

長ししししの魚を味し味し味し  
 素燻  
 田を味し味し味し味し味し  
 牛心  
 子笛乃上子片しぬ夏月  
 月居  
 独りしししししししししししし  
 久藏  
 明の中を味し味し味し味し  
 竹風  
 大木を味し味し味し味し味し  
 雨更  
 大木を味し味し味し味し味し  
 笑林  
 純ふれよ柄よ柄よ柄よ柄よ柄よ  
 乙二  
 純しししししししししししし  
 一茶  
 湖しししししししししししし  
 文雅  
 小やしししししししししししし  
 文鳥  
 麩や小淋しししししししししし  
 大可  
 麩やわししししししししししし  
 白二

蚊 蚊遣 蚊帳 蚊柱 蠶 蠅

糸くけ乃森や〜とま〜えの月 乙二

蟬多家の立子花もええて夜の月 風也

靴店の何〜糸一は〜糸糸山 雪<sup>一</sup>匪

浴〜した魚乃折ゆて夜乃月 芽巡

尾備乃あり〜まり体物葉山 白二

水きけ〜所のさ糸おな乃月。 春尾

水の異あ〜と二は〜と出り星夜乃月 糸花

糸の海〜とま〜にのけて夜乃月 花初

山あり花結きけ〜とや能乃若 応化

るふ〜とま〜とも〜夜乃月 双泉

たの〜ま〜樹子か〜る〜を夜乃月 応泉

山寺や〜花結き〜と月乃月 廿五村

月の夜〜とま〜の体結き〜と糸 雪丸

花を〜とま〜ぬやゆ〜水の糸〜と 知り

森さ〜とま〜や花の〜花ぬ星の水乃音 双鳥

堂〜とま〜は〜とま〜を結き〜と糸 牛心

糸の何〜と清〜とま〜とん花結き山 乙二

糸の何〜と折〜とま〜と糸キハ〜と糸 一茶

雷止〜とま〜乃結き〜と糸 林曹

酒途〜とま〜乃結き〜と糸 標山

板の右ぬ〜とま〜の糸乃馳き〜と糸 耕雨



蝮虫 蝮牛 蝙蝠 青鷺 蚯蚓 蛭

かふいふきものふし多抗好性 川守  
 親ふけと凡とまきう好きの大 一仙  
 といひ乃きりあてきりぬ好きふ 沙堂  
 といひ乃二日一毎も好きふ 雪帝  
 かすつて好乃川中雨百子 央千  
 川裁乃をきぬ好きや夕月友 花朝  
 好け一好や通うて是れは通らる 蒼地  
 好け一好や服あした月と山の丘 心多  
 一色を好きを好きはなりり色 葉静  
 山きや子を合せても好乃山 李朝  
 好乃先乃一好も好きの死をうふ 李朝  
 好の好いそけた先てつきかり好 亮政

追ふふし小融て席を好の好 黄山  
 引好すふし小融て足子きふ 芥子  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 百明  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 雪帝  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 心多  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 亮政  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 芥子  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 百明  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 雪帝  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 心多  
 好乃一好乃ぬ川のそあや又知り 亮政

喜城 志紅 本人 竜果 獨堂

振舞ふ不<sup>レ</sup>分<sup>レ</sup>川<sup>レ</sup>極<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>和<sup>レ</sup>管<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>里  
 山<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>め<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>代<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>此  
 系<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>迎<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 遊女 鳥<sup>レ</sup>鳥  
 莫<sup>レ</sup>々<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>漁<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>喰<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup> 乙二  
 小<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>考<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>遊<sup>レ</sup>ば<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 能<sup>レ</sup>咏  
 地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup>已<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>考<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>より<sup>レ</sup> 雪<sup>レ</sup>雄  
 而<sup>レ</sup>倒<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 子 程<sup>レ</sup>難  
 然<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>氣<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>次<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 心<sup>レ</sup>多  
 乃<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>へ<sup>レ</sup>角<sup>レ</sup>こ<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup> 子 省<sup>レ</sup>三  
 笹<sup>レ</sup>葉<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>月<sup>レ</sup>初<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 奇<sup>レ</sup>榮  
 地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>未<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>月<sup>レ</sup>表<sup>レ</sup> 白二

鶴 劍  
 眞 築  
 通 鴨  
 燕

集<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>め<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>管<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup> 曉<sup>レ</sup>山  
 不<sup>レ</sup>分<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>分<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup> 亦<sup>レ</sup>化  
 人<sup>レ</sup>静<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>分<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>静<sup>レ</sup>なり<sup>レ</sup> 一  
 吾<sup>レ</sup>州<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>遠<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 山 霞<sup>レ</sup>岫  
 亦<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>遠<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 交<sup>レ</sup>白  
 子<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>けて<sup>レ</sup>今<sup>レ</sup>考<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>管<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>。 文<sup>レ</sup>丘  
 啼<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>考<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>照<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup> 亦<sup>レ</sup>求  
 新<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>純<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>え<sup>レ</sup>より<sup>レ</sup> 岳<sup>レ</sup>洛  
 莫<sup>レ</sup>々<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>交<sup>レ</sup>築<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup> 子 仇<sup>レ</sup>鳥  
 舞<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup>新<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>月<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup> 子 三<sup>レ</sup>志  
 約<sup>レ</sup>好<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>新<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>瓜<sup>レ</sup> 刃<sup>レ</sup>求

蓼花  
葦菜  
海羅子  
以上

木の葉よりけし 鶯子の出る處 名所  
 春後や葦菜の幸 乃の草より出 本海  
 重を渡原を集り 鶯子もあまき 梅人  
 以時や子、や春を鶯子もあまき 才海  
 と風を鶯子の後 乃の草より出 一葉  
 布若千は免や地を辰のゆり 白二  
 鶯子の後よりけし 鶯子の出る處 孤山  
 田河よりけし 乃の草より出 太爺  
 川よりけし 乃の草より出 赤六  
 葉外よりけし 乃の草より出 弘々

曳てきし、葦菜もあまき 乃の草より出 五明  
 乃の草より出 乃の草より出 冥山  
 乃の草より出 乃の草より出 忘泉

五月  
端午  
言蒲  
同湯  
薬日  
懺  
競馬

日のあしき人多くも訪来ぬ五月 久藏  
 衆くし 乃の草より出 乃の草より出 欽雅  
 乃の草より出 乃の草より出 奇測  
 乃の草より出 乃の草より出 乙二  
 乃の草より出 乃の草より出 一具  
 乃の草より出 乃の草より出 完素

下子のききり馬も並ぶ夏の夜

下子のききり馬も並ぶ夏の夜

けしり高瀬もやハミヤ

赤木もあやめりるる者可也

安やあ湯も何りと振やとめ女

子のききり馬も並ぶ夏の夜

高瀬もあやめりるる者可也

白二

ぬききり馬も並ぶ夏の夜

赤木もあやめりるる者可也

所村へといけのゆれの不里ふ

浮けけり馬も並ぶ夏の夜

某日やめれてあまの子の思ふ

五月雨

梅雨

粽

五月雨

粽

五月雨

粽

五月雨

粽

五月雨

粽

五月雨

粽

五月雨

粽

五月雨

粽

五月雨

粽

○ 異光

申馬

白牛

月時

尾蛸

白二

貞隈

三河川

茶山

士山

友佐

鶴遊

応泉

蒼太

篤志

窓也

蒼帆

中陽

桂二

志五



五月乃や穂下り忌やぬる古小社 成天  
 五月乃よりもて下りしる事化り所 風分  
 五月乃や五味縁きけ大月あらし 八采  
 五味しをも胃の印くやおはる月 三 士常  
 晴しこのと粉粒いそ升れ五月元 下 南海  
 大市を如之川てあしぬ五月うふ 凶年  
 梅田の山如之川てあを晴し五月り 冬異秀  
 大所乃きれうよふ水次五月乃 セ 一東  
 子傳ふて猿骨出くはちまじり 風融  
 梅田晴しや子下りおとろく弟此者 上 田高  
 折角しる志つさりそ五月 下 寫 鳥叟

五月乃乃仔細小鐘あき夕アう糸 士郎  
 入右のうひあきし里やなうく影 梅室  
 あつ志くれうひあきし 三 五重  
 比と多れしり入右の障五月うふ 梅山  
 解りうくお張ハくくは休縁うふ 甚良  
 解りくく 馳走ぬりり了縁うふ 卓地  
 不のふさや月くして是つ休さく縁 由折  
 多とおろけ 下 多しを静系縁 下 白二  
 菰ちちちれ子くくぬてぬぬ 下 梅山  
 けくちのくくあしぬまて五月乃 素挽  
 みききあおまつよき穀や五月乃 可一  
 水者もたの志く 下 屋や 下 筆 月乃 日莫

山もとりまき種をえり。入新ふ平抄  
義信やそ人ぬりあても物も喫。免聖  
世の系ふりしとくもたれと月を 志泉

早苗  
田植  
早乙女  
田植唄  
虎之雨

涼し女乃浪も根ゆけ早苗ふ 苜三  
ふふ田も植てあ乾山ゆふ 八采  
ふふ女田も植身——月友ふ 下菊守  
嬉——うらを焼人田は田植ふ 素葉  
まやし——と行けゆく田植ふ 升六  
水ふ——とやふふあき田植ふ 力、柳壺  
あふふを列てふふき田植ふ 幸貞士  
ぬ——あふと川寸戸ふ田植ふ 力、菊人

植——ときりぬふ——早苗ふ 月居  
はら——と世を行けえ者の降 力、楓下

幾世赤着そ田う人の古方鞭 篤志  
人先子し田も植て苗を吹 有隣  
まをえう出ると楓も植乙女 力、千象  
早乙女や一反とうり楓は出—— 力、木能  
あふふとむげ——ふあふて田植唄 由哲  
あふふ——と先先さうは田植 力、芽盛  
月——とあふとえハあふ何も田植 力、棠花  
おろまふとふりゆへ原のふ田植 力、走往  
ふ川——と入植てぬりまき田ふ 力、白二

和しお出しておさめてりや虎う田  
虎う田子のそふとふふ何も家  
まゝらんも美理子早も若我条  
首尾美人おめの唄とてさるり  
下七  
二 魁

挿さぬけそこのけは山田  
むこらしく田乃きそと余り苗  
苗さそと終もその日不挿りり  
信子のし川流し挿さむ子苗糸  
挿すしふと魚や子苗の目分星  
子乙女子一日あふや人乃親  
子しめやあの一むゆきととの連

米を佳くしる此田もや合節のむ  
林堂  
秘ぬのきさふても男らしくなし  
心泉

苔花  
百合  
石竹  
石菖  
瞿麥  
紫陽花

梅子子むとりやなり舌の陸 蒼乳  
志里しと随て庭中苔のたぬ 海外  
苔乃むくこぬふのこ書うん 井眉  
かくまふかも田南の所りて苔の花。 春時  
ねふふくく介子子苔おし苔の花 老係  
紫陽花や色も明りもおとふし記 夜多

紫陽花やけちと集て花ふし川  
乙二  
乙二  
而后

萍花 藻花 菱花 椰花 河骨 紫菡 紅藍花

静さをとる下りそよ風よ花の花 標  
 苔のそよ風漂て乾き咲て居る 他 縮  
 乾く甲をそよ風しふく其の花 可 布  
 紫陽をやおしをふくをそよ風 系 采  
 若碧乃一透者乃たそよ風 白 二

花毎下りぬかの丸川や山の百合 一 具  
 紫陽をやろよ風をそよ風乃乾くけ口 花 室  
 石竹の束をふくそよ風 系 紫 暁  
 撫子下りおもく切多は日々 古 丘 高  
 撫子やろり乃子ハ其も何は 冥 山  
 石合切ておぬえてぞよ風の中 養 虬

石菖下りそよ風をそよ風乃 菊 負  
 石菖や小針下りそよ風乃 広 泉

萍下りそよ風乃和絲豆の彼中 秋 卷  
 は下りそよ風乃そよ風乃 雜 吸  
 藤の花や静をそよ風乃 友 佳  
 萍や下り乃り乃たそよ風 慈 少

字れ人もはそよ風乃そよ風乃 淡 々  
 咲て了人も和静をそよ風乃 雄 測  
 雲乃そよ風乃そよ風乃 春 庭  
 河骨や静をそよ風乃そよ風乃 白 二

浮子や節く多むし一花乃咲  
 素柳  
 浮子や休くをふし一花の滅し  
 弘々  
 浮子や存たう少事呵らりく  
 左人  
 手しそくをふしやあしん菱の意  
 梅泉  
 尾形屋乃船さの子とや紫菀畑  
 白二

浮巢  
 鴨の子  
 水鶏  
 翡翠  
 移鶴

秋きりしむとと系降浮巢よ  
 外膳  
 あくけハき係しを尺や火取虫  
 衣么  
 火くや虫をしあし一蓋折しを  
 昂  
 山子月松しをきりぬせり虫  
 天  
 佛兄  
 丁五

火蛾

相酒し一甘ぬ水筋の若乃流  
 木海  
 窓ふてし所れをくくふく影よ  
 乾陽  
 影西しきくや浪しとちさく  
 柳室  
 ぐめをむとけすむ山崎ふ光  
 一音  
 呪をしを尺をくや火くり虫  
 未月  
 取多れを焚てりをり火取虫  
 雪帝  
 火くり虫をり。何をくを寄せし  
 春融  
 時時や浮巢乃多むし手合し  
 友徳  
 月の燈し一東りけしとを鳴る影  
 芽岱  
 逆身乃そくをし石以浮巢よ  
 白二

啼やめども熟んえりりちゆと  
 かゝの子のあおけえそやほりゆく  
 うら子や師桶んそも入こりゆ  
 珠をとり人うけしきえきりりり  
 田の一ハ一ぬあゆめそふりゆむ 六  
 物をむしそあけ後よとそりりる  
 水口茂飛ふき乃きゆあ窮ふ  
 箱のほく細の里去して鳴る窮  
 火より虫五て月一たそ安涼一  
 河せまぬ影り魚やは一乃月  
 桃乃葉二一水窮よあゆりゆ  
 士 鹿  
 風 鹿  
 蓮 石  
 弁 六  
 百 舌  
 梅 央 ぬ  
 依 常  
 千 石  
 月 ね  
 友 佐  
 応 泉

蟬

同時雨

鹿子

火串

照射

蛇衣脱

叶山や子りあしゆく夏乃蒸  
 かあーさおほもうえぬ火串ふ  
 麻の靴をふく風トそそるり  
 麻の子ー山風吹りヤ味も居れ  
 日暮るちり木うし吹り一乃鶴  
 一あししそ又又ゆ火串一ゆ  
 静さゆあちちをきや串ゆ  
 けく島木もー一あさ急の聲  
 蟬あーくま影人ともあー一あ次  
 木を下のうらそそあゆりの子が  
 小男の麻や樹をうらそそあ次  
 五 明  
 う 布  
 一 葉  
 乙 二  
 素 志  
 多 々  
 月 下  
 山 介  
 白 二  
 月 芽  
 一 葉

此種も蟬も子も皆やさ 男 白 蟬  
 晴葉も多しきより蟬の音 賢之  
 磯山や波も多しき次蟬志くき 月時  
 蘇の子や波を乾く生くつ 学市  
 能くそりた子乾く収るうの子 春麻  
 子乾くあつらのえゆうの子 仔茶  
 うの子子乾くつ 立すお母えりり 学堂  
 乾くつ 収る月干 片く立うの子 素志  
 秋日乃風干 乾く 乾地のきぬ 彦市  
 松も とき日をもく 次蟬の音 万和  
 ぬのも ときぬ 虫串のええぬいぬ 而后

山風乃風干 けちや 虫串も 土 藤  
 五橋をもゆをを乾くうの子 鳥 谷  
 河をを乾くつ 乾くうの子 梅 菜  
 地を 乾くつ 乾くうの子 倉 札  
 何うふと地をせりううの子 若 菜  
 節く 子乾くつ 乾くうの子 芥 一  
 穂人のよけをを乾くうの子 彦 雨  
 花弁 乾くつ 乾くうの子 麦 尾  
 蟬鳴や乾くつ 乾くうの子 二 奥  
 蟬鳴や乾くつ 乾くうの子 蟻 山  
 やけを 乾くつ 乾くうの子 宇 仙  
 乾くつ 乾くつ 乾くうの子 かくめ

松の葉や枝はちる人々つはれ中串ふ  
玉ころ輝け乃明末子去ふり  
秋石入よるをも照す守りふ  
蒼乳 一步 応泉

水無日  
氷室守  
菱氷  
葛水  
水賣

六月乃夜十時却り初日  
氷室守と石ふも清く色  
氷乃賣思もきよ純田なり  
六月やきふも身をも初見り  
氷室守中をさるる多かる  
風多きと雪の氷室乃使可  
別書し一をさるる氷の南  
標堂 大江丸 牛心 万和 可怒 蒸日 応泉

六月を何すふぬもせたり  
葛水乃夜十時却り初日  
六月乃夜十時却り初日  
六月やきふも身をも初見り  
氷室守中をさるる多かる  
風多きと雪の氷室乃使可  
別書し一をさるる氷の南  
丘高 廿二村 千糸 梅室 梅室 雪山 大可 瓜々 雪帝 応泉



祇園會  
 富士詣  
 一夜酒  
 夏神樂  
 霖冷  
 夏瘦

相凡や此免を右腕に挿し陣乃り見  
 月と甲州の舟を舟元次不二詣  
 文殿をよのわらむとて一夜酒  
 月河  
 母より最釘をねくきぬし一詣  
 友徳  
 不二より曾あはれを新き色一長詣  
 白二  
 夏神未上手より家たすし一詣  
 花岳  
 花婿のつけも先詣や不二詣  
 月崎  
 月く河流のあはれ先詣一長詣  
 賢之

紫金  
 卓池  
 具左  
 月河  
 千代丸  
 友徳  
 白二  
 花岳  
 月崎  
 賢之

暑  
 涼  
 納涼  
 日盛  
 炎天

一隅を戯り侍を交神未  
 笛たけを初手く康一夏神未  
 持ま川乃新下り河霖冷  
 心泉  
 侍うくく人下途水ぬ是可水  
 可熱里  
 松杉乃是くく夏多立ふり里  
 樗牛  
 人味をくく少一涼一と心一里  
 成災  
 人味をくく少一涼一と心一里  
 尻介  
 母河りくく人あり門す夏  
 木海  
 未一人下川り立や門す夏  
 杜鷲  
 涼一とくく松系あはれり門  
 松崎  
 一志きり河くく淋一と心一里  
 五箕

弘々  
 大可  
 心泉  
 可熱里  
 樗牛  
 成災  
 尻介  
 木海  
 杜鷲  
 松崎  
 五箕

何尺てもうさうしりらぬ思ふ  
飢多しり水子あつた酒凍ふ  
亦泉

涼—さや家乃曲りハ東んて次  
成災

天夏を降くみりを入すみふ  
素志

門す火氣志の重り入り  
芥舎

後のりうけいお賞ふすみふ  
六左琴

人そ—は清りもは次門す  
五芳

思き日はらとも思ゆれ音の月  
木海

批入体時うす火乃あきうぬ  
花相

去霞も十分りれく思ふ  
甘、碩山

涼—さやぬく体はとり了蟬の尻  
白二

下相我

足抑て涼を毎ふすやす  
尾堀

足先て破盤もあふす  
素志

友獨乃中ふす—紅雲ふ  
奇哉

丸擲て仲をわうり夕す  
奉玄危

涼—さやぬく川岸—  
芳岱

涼—さやぬくおぬきゆく後月橋  
月崎

独ひても解ても思ふ  
西馬

集りもあつても—  
悠々

独り居生え酒凍のる  
園更

大の思ふさう見乃色  
風介

一むしう内袋はうりや門すく矢  
 来庭き人きまをゆり終をすくま  
 異きりやたのそむま月ちうま  
 異きりやうちの樹を粧る此次  
 所居るう日暮りあらははるま  
 居るまをあら右のぬまをうま  
 源一さや桐戸をまの体合使  
 源一まの陸をてまの持神子  
 世まのまのまも見甲の異うま  
 立阿うの人のちも異うま  
 うし不甲の内まのまの異うま  
 花まのまのまのまの異うま

この糸乃静しきまの異うま  
 涼一まのまのまのまの異うま  
 李井  
 心泉

月出まのまのまのまの異うま  
 中丁乃日毎まのまのまの異うま  
 ありてまのまのまのまの異うま  
 著三  
 月河

まのまのまのまのまの異うま  
 星しりかすまのまのまの異うま  
 中丁や度けのまのまのまの異うま  
 衣つまのまのまのまの異うま  
 標堂  
 護物  
 白二  
 可布

土用  
 土用丁  
 帷子  
 过花  
 浴衣  
 瀑布

風薫

青嵐

雲峯

雨乞

夕立

面ふ小行のふらふらく俗友の如  
 一茶  
 帳子のちとゆなりぬ廣小紙  
 雪燈  
 帳子よりふちをうらふ山崎うな  
 芥子  
 冷しし鬱鉢来多り七用丁  
 西月  
 松しけりまきまきつるや七用丁  
 九花  
 尚のふきおまじりもまき七用丁  
 冥山  
 初しゆしや浪花通れを芦くぬく  
 応永

雨乞りし早は必司乃あまし  
 蕪村  
 英しやりの日をばくむを乃早  
 井知  
 風うは休ましむく人たまの志れ  
 升六  
 女の志しと面ふやまの  
 槐翁

尺さしちふ風乃つる海やまの  
 夢  
 八ッ橋  
 清涼やまの餅つるぬ青なりし  
 后二  
 雨乞やめれな夜あはれ乃青子  
 応永

舟の子うまふしき山や青なりし  
 乙二  
 室字重なる朝日降りやまの  
 夢  
 天片ちのちとまのれとまの  
 志  
 志と山の夕立京あけはけし  
 棟  
 尺八しあふし外し出ぬまの  
 友  
 夕立や西月あれ乃まの  
 里  
 桂  
 夕飯とまの  
 味れまの  
 乃  
 古  
 眼  
 志月や味れて尺さしちの  
 志  
 茶  
 石

夕立し雨し折り山ふくむ  
賢之  
残唯くまのしりもあややまの  
底多

吹をせて不二の根はくれ重の  
月居

くくくくく月あふあふ重の  
雲地

夕立乃けりあまぬくね板可ぬ  
榮更

夕立や石度あふまを過りりは  
さいき

その雲あふまを過りりは  
子以

子曳て夕立し川に弱法師  
白二

東りしりあふまのあふまの  
下 樂多

あふま月あふまあふまのあ  
五 樂化

清水  
歩水  
水裁合  
滝  
川狩

流き出て世にけりあふまの  
八 鳥

挽人乃掃除しを折し清あふま  
着三

河狩は仲りり川にまをり  
三 啄秋

あふまをふくむあふまの  
下 敗菓

水歩てあふまあふまの  
石 唱

あふまのあふまあふまの  
梅 汝

川狩乃あふまあふまの  
五 汲

連のあふまあふまの  
州 以

破るあふまあふまの  
白 二

あふまのあふまあふまの  
白 二

あふまのあふまあふまの  
千 糸

退居の月よりふるを 後よりふ 全 石 系  
 一里ありとあり下り 多しぬ 後よりふ  
 西より乃ちありとも ありぬ 後よりふ  
 ちりぬとふるぬわうあり 後よりふ  
 中へ水の中より ありぬ 後よりふ  
 毎日乃ち音ありら ありぬ 後よりふ  
 といふをよみてあり ありぬ 山乃坊 亦化  
 水ありて又これを 擇ちて ありぬ 沙堂  
 水ありてや ありぬ 中へ ありぬ 一たりき 蒸月  
 常入て又これを ありぬ ありぬ 月下  
 通りぬありとあり ありぬ ありぬ 下 淇師  
 ふとぬのぬ ありぬ ありぬ ありぬ 白二

仲 繪  
 心 太  
 水 飯  
 冷 麥  
 冷 酒  
 冷 瓜  
 于 飯  
 掛 香

力下り 繪 小東を月乃 ありぬ 心 太 葵 左  
 仲 繪 矣 乃 ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ 宗 憲  
 辛いもの ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ 涼 州  
 水 飯 や ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ 三 休 人  
 并の ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ 卓 代  
 瓜 切 て ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ 林 曹  
 小き を ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ 小 養  
 ありぬ や ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ  
 ありぬ の ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ 一 具

川社

簞

竹婦人

抱篋

竹床儿

茅輪

御杖

あめしふ菜の河波あくすまふ危  
于飯や二日飯よ此忌乃一跡  
おとろ乃ろろむく川も河れ冷し西  
お風もま川きあもあしや冷し夏。  
世話のあいもくひまの形も心左  
菜静  
白三  
雪舟  
端々  
瓜束

涼しき竹床りうう瓜は杖うふ  
月しるるれ青く持るり竹床儿  
素以しふいすしき以りお杖うふ  
ま棒く人を持てもお市次 簞  
素以しるるるきさ此杖の木のり  
ま棒く人をせしむ起すや涼く危  
葛三  
南竹  
有一  
花勇  
素志  
山形

此杖しを風影公くまいたき筆く遊  
兼も習りし是れもかた此杖うふ  
しるる乃立や此杖の六月をりせ  
杖りく此杖の奇麗さや竹婦人  
杖りくも炎よくしりく大楠うふ  
辰彦  
意西  
仁定  
九皋  
音准

恙のあ甲をいりあきり竹むしり  
月のりしあをきりその杖竹婦人  
抱うこや筆を北ふくわくしり  
洗ひ髪ししを遠ふり此杖の棒  
涼しきや根をめぐり洗ひ髪  
成天  
種河  
白二  
冬沢  
松窓

蓮花  
夕顔  
鼓子

古呂事出とおきりあつた水ぬ人 九起  
抱く去やもいづれをたもいのいも次 オク字既  
終り中を澄りおくまゝのまじ 平 風眉  
松凡と一度下ぬ事候ち乃日くあ、 松声  
凡なりし中澄をぬ多候ち乃くあ、 松守  
お保あうしておぬまゝを尊一 月時  
松く根や浅奈ふきぬ川 社 文桂  
親の事かかへるぬ事候ちの己系 広永

奇例  
標半  
登切

百日紅  
青葙  
葎花  
綿の花

縁くさる甲を包ふ蓮の花 広永  
世りすれり走りあむあり青すれん 乙二  
あきの蓮むりあひをる事あり 由物  
百日ありのまゝいづれもいづれも 芋文  
豆白くあつたありや追拈半 白二  
豆白くあつたありや追拈半 夜佳  
豆白くあつたありや追拈半 一水  
豆白くあつたありや追拈半 芭意  
水くあつたありや追拈半 六走々  
夕顔乃凡下忘るく夜まうれ 高多



青田 田畔取 青瓢 竹皮腕 釣シラ 麦芦 麻洲

豆の仔乃何し凡れりすくたふ 常星  
 若くは滝を走る多れすれふ 白二  
 夕顔や日乃入時比一掃 深 初湯  
 夕顔や浅黄むすむ乃直とら後 至 麦星  
 夕顔や春提てあて高とら後 夜多  
 七月のあはれなるき利蓮の氣 有 矣  
 蓮池や風来あつ乃花な可憐い 日時  
 夕顔乃先下し伸もやますくた 三多  
 八気母を嘆てハあつ次孫の宅 真環  
 唇白し一帯のよ乃巻をふり危 智雄  
 廿暮下やきのよのたを吹流し 年山  
 若くはききのあつあつハあり危 後 嶺

山里乃肩和下し又中休ま田うふ 平 素人  
 水あてまたこしきりあつあつ 白 記  
 廿良も隣下し合素利し回子取 亦 化  
 若くはあつあつあつあつあつ 月 河  
 しのいしめまほなりきり田子取 葵 太  
 麻州やて入しころふりしと久く 重 年

夜半や微の窓をを響くまは 江川  
伝ふ此尾の浪うしりあすま田山 免士

掃くつふあをり伸るるま田の西 風初

移るるあをり田千掃木の底をい 渡柳

移るるあをり田千掃木の底をい 昇風

吹るるあをり田千掃木の底をい 砂嵐

吹るるあをり田千掃木の底をい 友徳

吹るるあをり田千掃木の底をい 花室

吹るるあをり田千掃木の底をい 子風

吹るるあをり田千掃木の底をい 亦泉

夏塵鋪

新井

施薬

夏泉

鏡迎

水音と灯の地走ま利交響は 味舎  
足冷すはとと一毎むす夜中は 庭石

口の音と灯の地走ま利交響は 岱年

口の音と灯の地走ま利交響は 一貝

口の音と灯の地走ま利交響は 白二

口の音と灯の地走ま利交響は 士山

口の音と灯の地走ま利交響は 弥芳

口の音と灯の地走ま利交響は 亦泉

追加

本尊谷やおくくも乃のまき子	玉蓮
今之粒の毛えまけを芳やかむつり	九龍
川あ乃くちまゆ後まきいまり	子季
夕うぬや雲くも乃かまそんた	一仙
折れ乃えまきくも乃や葎たん	樗山
つりくもくも乃のまき子	丁山
たれまきも乃まきくも乃の月	新川
まきくも乃まきくも乃のまき	双泉
まきくも乃まきくも乃のまき	桂堂
毛入くも乃まきくも乃のまき	白二

